

CLOSEUP 岩手力!

工程改善研修会参加企業

株式会社サンセイ イサワ支社

大不況のまっただ中、
あえて新工場を稼動。
高精度金型部品製造で
生き残りをかける。

東京・大田区のものづくり集団のこだわりの技術が岩手県の一工場に受け継がれた。これを担うのはすべて地元採用の若き精鋭たち。彼らは今、ものづくり技術に加え、自らの心の部分にも磨きをかけようと動き始めた。



新工場に導入された新鋭機の数々。ドイツ製の3次元座標測定器。ミクロン単位で製品の精度を図る。価格は数千万円と、製造装置を凌ぐという

嵐の中、新工場が船出

今年(平成21年)1月5日、サンセイ イサワ支社の新工場が稼動を始めた。医療、電子機器など高精度製品の部品を生み出す金型の精密加工専用工場だ。

新工場建設は1年前から計画されていた。ところがその途中、米国発の世界大不況に見舞われ、一時は工場建設中止、設備導入キャンセルも検討された。このとき、中西美伊子代表取締役からゲキが飛んだ。「本当にやる気があるなら新年から操業するように。1日も早く立ち上げて1本でも多くモノをつくるように」。

不況の折り、設備会社は早々に正月休みに入ろうというところを懇願して設備を入れ、新年仕事始めの稼動に間に合わせた。

「新工場ですでに加工サンプルを持って営業に回りますと、この不況のさ中、こんな設備を入れたの、と驚かれます。今までの我々のレベルでは対応できなくてお断りしていた仕事も、新しい設備によってできるようになり、それならばと受注に結びつくようにもなりました」(田中社長)

新工場のゴーサインを出した中西美伊子代表取締役は創業者中西由松氏(故人)夫人。長く舞台裏から経営を支えてきた人で、今も社内で表舞台に立つことはほとんど無いが、重役たちには創業者譲りの芯の強い経営方針を指し示すという。

新工場には1ミクロンの精度を可能にする放電加工機や研削盤を設備、合わせて3次元座標測定器を導入して技術の高さを確かなものにする。これまで標準規格品を中心に生産してきた同社が「特注部品」を前面に出し、次代に向けて大きく舵をとることになる工場だ。これが大田区の発想。

ただ、新工場と従来生産ラインとを新・旧の視点で位置付けているわけではない。言わば役割分担。長年培ってきた標準規格品がまだまだ稼ぎ頭であることに違いはない。

「新旧工場に変な差がついてはいけない。常にものづくりに対する前向きな気持ちを持って、みんなが1ミクロンの仕事をしたいという気持ちを持ってほしいと思っています」(田中社長)

東京・大田区ものづくり魂

サンセイの前身、有限会社三西自動機研究所は昭和42年2月、日本の工業ものづくり産業の故郷とも言うべき東京・大田区に創業した。

1万種類にもおよぶ
標準化部品を紹介する
カタログ





ワイヤー放電加工機



プロファイル研削盤



精密加工専用機とオペレーターの操作技術から生み出される特注部品がこれからのメイン商品になっていく

創業者中西由松氏は三重県松坂の出身で「頑固一徹、全身がものづくりみたいな人だった」(田中社長)。アイデアマンであり技術者としての強いこだわりを持った人で、金型部品の標準規格化、カタログ販売という当時の業界の流れを受けて三西自動機研究所を設立、「プレス自動送り装置」の特許をとって国際見本市などにも出展した。

三西自動機研究所より先、三松製作所を興してソニーの前身、東京通信工業のプレス加工品を製造。下請け上位五指に入る工場だったが、ソニーが海外に打って出たとき、一緒に行かないか、と言われた際も「大田区のものづくりが外国に行ってしまう」と頑としてソニーの誘いを断ったという逸話が残っている。

また、最期の病床にあって田中社長を呼び寄せ、「機械は動いているか。来年はどういう機械を買うのだ」と質したという。ものづくり一筋だった技術者の一面を伝えるエピソードだ。

現田中社長も安倍工場長も中西会長の強い影響を受けている。東京・大田区のものづくり精神が岩手の地に受け継がれているというわけだ。

工程改善、人間を磨く

イサワ支社は昭和63年、株式会社サンセイ イサワという別会社で設立された。



イサワ支社取締役工場長の安倍由和さん。技術のリーダーから工程改善のリーダーへと変身中

地元のためにという中西会長の考えによるものだった。その代り、従業員もすべて地元で採用するように。現安倍工場長など「全くの素人」数名が本社に赴き、研修を受けて新会社を立ち上げた。以後、本社に追いつけ追い越せをスローガンにひたすら技術の向上を目指した。

「ふと振り返ってみると管理者が育っていない。ISOと言われても何のことかわからないという状態でした」(安倍工場長)

そうした折り、いわて産業振興センターの工程改善研修会に誘いを受け「改善」への取り組みが始まった。まずは清掃、整理整頓からという状況だったという。

現在は、改善、エコアクション、掲示物管理の3つの委員会を設け、それぞれ役職とは関係ない「元気な人」をリーダーに選抜して全社的に活動を展開している。

「どんなにいい機械を入れたって人間が三流ではいい製品はできない。機械もいいけどサンセイは仕事が凄いいねって言われたい。そういう思いで社員にもハッパをかけていきます」(田中社長)

企業概要

- 創立 1988年8月(イサワ支社)
本社創業は1967年(有限会社三西自動機研究所＝当時)
- 代表取締役会長 中西美伊子
- 取締役社長 田中和男
- 資本金 5,000万円
- 事業内容
プレス金型部品の製作・販売
- 従業員数 75名(イサワ支社)
- 所在地
奥州市胆沢区小山字中油地119
電話 0197-47-2020
- 本社・工場
神奈川県厚木市下川入205-3
電話 046-245-5111

URL <http://www.sansei.com>

今月の表紙／写真左から、成形研削担当の遠藤一志さん、切削担当の小野寺勝行さん、研削担当の佐々木冬樹さん、営業の佐々木浩子さんと阿部元樹さん。男性4人はいずれも2級技能士のライセンス保持者。イサワ支社は生産主体の工場だが営業スタッフを置き、対顧客営業のほか生産管理的な業務も担当。皆さん、胆沢平野の水で育った元気な奥州っ子だ。

社長プロフィール／田中和男

昭和32年生まれ。創業者・中西由松氏の薫陶を受け、東京・大田区のものづくり魂を次代を担う技術者たちの心に吹き込む。ミクロン単位の高い精度の技術領域に厳しい視線を向けながら、一方で「まず一社会人たれ」と技術者たちを戒める。自らは営業色の強い社長として新技術の売り込みに余念がない。神奈川の本社から車を駆ってイサワ支社に駆けつけ、所用を済ませるとそのまま東北各地の得意先に向かうという行動派。

